

※平成27年版高齢社会白書に記載誤りがありました。[平成27年版正誤表](#)
本ホームページには準備ができ次第、修正後の内容を記載いたします。

(2013)年では59.9%となっており、10年前(2003)年)に比べると7.2ポイント増加している(図1-2-5-6)。

イ 世代間交流を促進するための必要条件は「交流機会の設定」

高齢者が世代間の交流を促進するために必要だと思うことをみると、「交流機会の設定」(31.7%)が最も多く、次いで「高齢者が参加しやすくなるための交通機関の整備など」(28.9%)となっている(図1-2-5-7)。

6 高齢者の生活環境

(1) 高齢者の住まい

ア 高齢者の8割は現在の住居に満足しており、体が弱っても自宅に留まりたい人が多い

60歳以上の高齢者に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で76.3%、持家で79.1%、賃貸住宅で56.6%となっている(図1-2-6-1)。

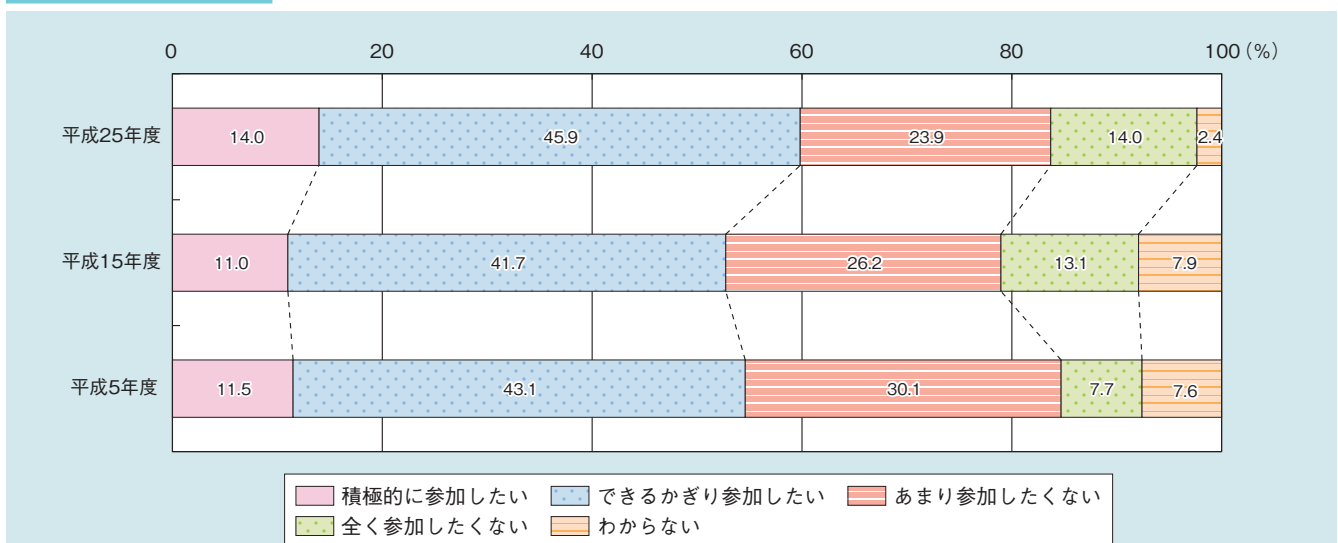
さらに、現在住んでいる住宅について不満な点は、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が63.8%、以下、「住宅の構造や設備が使いにくい」が32.2%、「家賃、税金、住宅維持費等の経済的負担が重い」が24.8%となっている。

60歳以上の高齢者に身体が虚弱化したときに望む居住形態についてみると、「自宅に留まりたい」(「現在のまま、自宅に留まりたい」と「改築の上、自宅に留まりたい」の合計)とする人が日本では約3分の2となっているが、韓国、アメリカ、ドイツ、スウェーデンと比較すると、スウェーデンに次いで低い数字となっている。また、自宅に留まりたい人の中でも「改築の上」で留まりたいとする人の割合は、日本は韓国に次いで低いが、5年前と比較するとやや上昇している(図1-2-6-2)。

イ 高齢者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の場所は「居室」

国民生活センターに医療機関ネットワーク事業の参画医療機関から提供された事故情報によ

図1-2-5-6 若い世代との交流の機会の参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成25年)
(注) 調査対象は、全国の60歳以上の男女

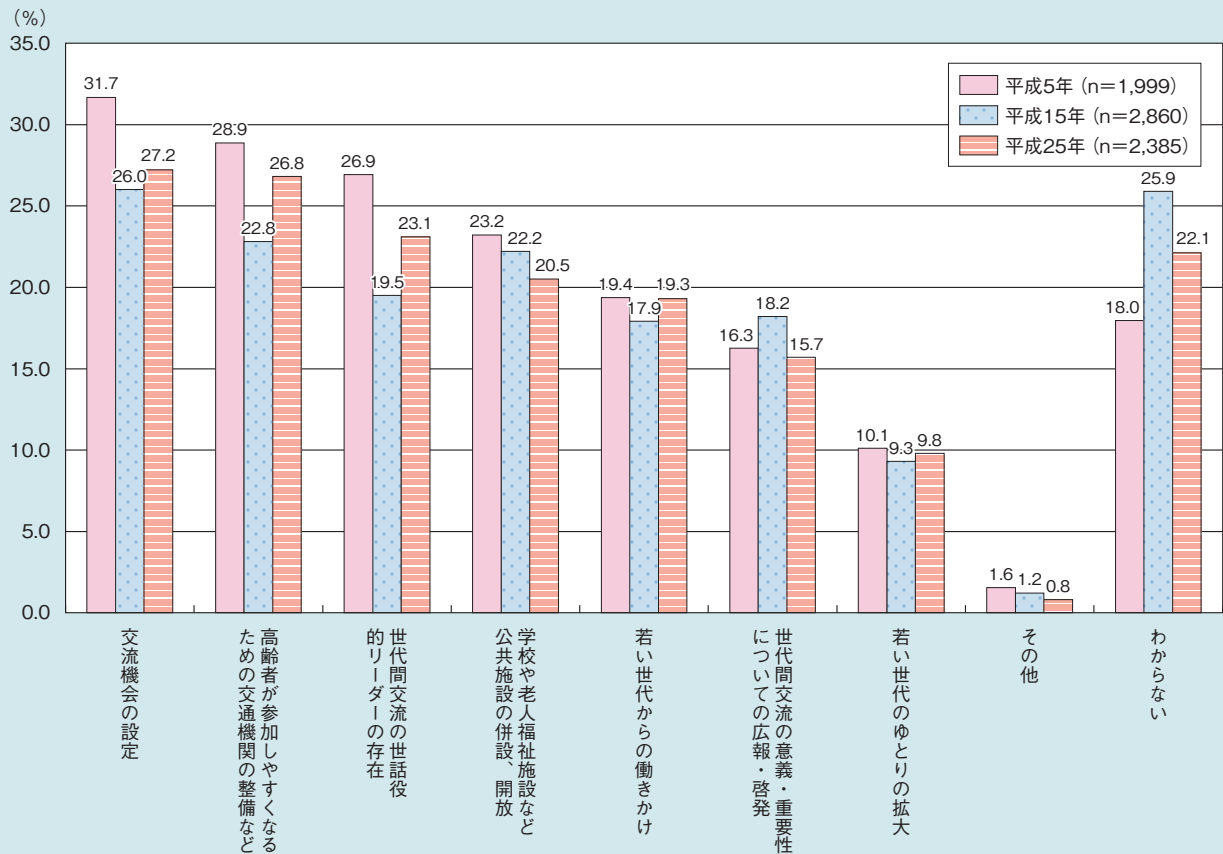
ると、65歳以上高齢者の方が20歳以上65歳未満の人より住宅内での事故発生の割合が高く、65歳以上高齢者の事故時の場所をみると、屋内での事故の場合、「居室」45.0%、「階段」18.7%、

「台所・食堂」17.0%が多い（図1-2-6-3）。

(2) 高齢者の居住環境

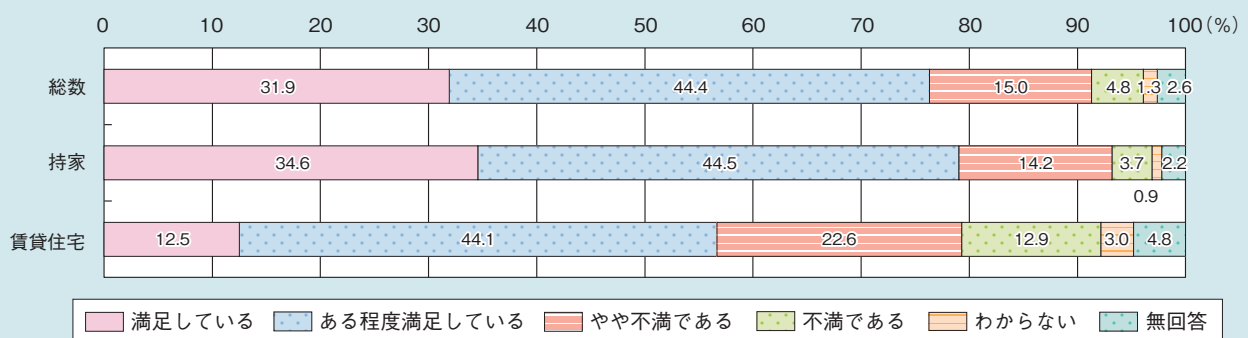
60歳以上の人々が地域で不便に思っているこ

図1-2-5-7 高齢者の世代間交流を促進するために必要なこと



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）
 (注1) 調査対象は、全国の60歳以上の男女

図1-2-6-1 現在の住居に関する満足度



資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成26年）
 (注) 対象は、全国60歳以上の男女